

提言

子どもの思いに寄り添う



中央教育事務所副所長

伊藤

悟

むかし、むかし、私が中学3年生の学級担任をしていた時の話です。

卒業式が、大きく変わりました。校長先生が卒業生一人一人に卒業証書を渡す方法から、各学級一斉に学級担任が渡す方法に変わったのです。この方法だと、卒業証書授与の時間を大幅に削減できるし、担任との人間的な触れ合いがより深まる、というのが変更の理由でした。先生方からは、時間短縮優先でよいのか、保護者の理解を得られるのか、卒業式後の全校合唱を検討するべきではないか等の意見が出ましたが、新方式で卒業式を行うことになりました。どこかすっきりとしない私でしたが、気持ちに踏ん切りをつけ、その新しいやり方で卒業式をやってみようと思いました。

卒業式のやり方が変わる、という情報はすぐに広まり、先輩方の姿を見て自身の卒業式をイメージしていた生徒たちに衝撃が走りました。卒業の一週間前、私が担任していた女子生徒二人が、帰りの会の後、教室に残り、お互いの思いを語り合いました。「なぜ、あんなやり方をするのだろう」「先生は、なぜ反対しなかったのだろう」「先生は私たちの味方ではなかったのだ」「私たちの気持ちを聞いてもらおう」…二人は職員室にやってきて、「先生、卒業式のやり方なんですけど…」と思い詰めた表情で話し始めました。しかし、私は「新方式に決定しちゃったから、もうあきらめて」と素っ気なく回答。その答えに絶句して暗い表情で職員室を飛び出し、教室

に戻っていく二人。自分の言い方が悪かったと反省した私は二人を追いかけ、ストーブの消えた教室で、卒業式に向けた自分の気持ちを二人に語り続けました。しかし、二人の涙が止まることはなく、顔すら上げてくれません。やがて、二人は肩を寄せ合い、目にいっぱい涙をためて帰って行きました。二人が帰る姿を職員室の窓から眺めながら、私は「嫌われた」と思いました。卒業まで、あと一週間だというのに。

翌朝、二人は私に手紙をくれました。新方式の卒業式が嫌だったこと、壇上で返事をしたかったこと、先生が新方式に賛成していることが悔しかったこと、でも、卒業式への思いは先生も私たちも一緒なんだと分かってものすごくうれしかったこと、自分も精一杯卒業式に臨むことを決意したこと等が書かれていました。卒業式当日は、二人の大きな返事や歌を歌えないほど号泣する姿に触れて、胸が熱くなりました。

コロナ禍で、思うように学校行事等を実施できない状況が続いています。それでも先生方は「子どもたちのために、今、何ができるか」を考え、知恵を出し合い、前向きに頑張っています。子ども一人一人の思いに寄り添い、子どもと対話しながら、より良い生き方を追求する姿勢は、必ず子どもの心に届くと信じます。今年度も残りわずかですが、新たなステージに挑む子どもたちへの熱い熱いエールとして、勢いある途中経過を創り続けていきたいものです。

SSWは、電話一本だけでいつでも活用できます

スクールソーシャルワーカー（SSW） 伊藤 栄二

各学校で日々関わっている事案の中には、不登校や引きこもり傾向、発達に特性のある子どもへの対応、経済的な困窮など、学校の先生方だけでは対応が難しいものもあるのではないかと思います。

SSWは、教員OBと社会福祉士の二人がチームを組み、学校や子ども、保護者と面談を行い、様々な社会資源（機関）の活用を図りながら、子どもや保護者を取り巻く環境の改善を図るための支援・助言をしています。中でも、学校から保護者に伝えにくいと思われる事柄も、SSWを介してならば提案しやすく、保護者も受け入れやすいということがあります。

今日学校では、多様な業務を抱えて忙しい毎日を過ごしており、SSWとの連携はかえって多忙に拍車をかけるのではないかと躊躇されていることも想像されます。しかし、決してそのようなことはありません。

- 1 特別な手続きや報告等は必要なく、管理職からSSWへの電話一本だけで対応します。
- 2 学校や保護者の希望する日時に、何度でも訪問します。
- 3 学校や子ども、保護者の願いをもとに話し合いを行い、具体策を提示し、実行に移します。

学校経営においては、「人、もの、金、情報（ネットワーク）」の4要素が重要だとよく言われます。各学校では、あらゆる資源を活用して子どもの健全育成に取り組んでいることと思いますが、その中にSSWも組み込んでいただき、周りの学校の活用例も参考にしながら、必要に応じて御連絡いただければ幸いです。

温かいまなざしを向け、思いに寄り添うことを大切に

スクールソーシャルワーカー（SSW） 佐々木 麻衣子

SSWとして最も大切にしていることは、相談者の思いに寄り添うことです。寄せられる相談の中には、問題をすぐに解決することが難しいケースが多くあります。だからこそ、子どもや保護者、学校の思いに寄り添い、支援の輪やつながりをつくっていくことが重要な役目であると感じています。

相談支援の中で、面談当初、保護者の硬かった表情が少しずつ和らぎ、時には涙を流し、感情を吐き出ししてくれるようになることもあります。先生方からは「話をすると、問題が解決したわけではなくても気持ちがすっきりしますね」という言葉をいただくこともあります。

SSWには、先生でもなく、友達でもないからこそつくることができる、ちょうどよい関係性があると感じています。この点を生かし、子どもや保護者が学校に直接話しにくいことを代弁したり、学校が踏み込みにくい家庭内の課題について間に入ったりして、互いの関係性をよりよいものにするためのサポートを行っていきます。このような地道な支援によって、子どもや保護者、学校の気持ちや思いのずれを調整することができるのではないかと考えています。まずは、保護者や先生方が一人で抱え込まず、話し合うことができる環境をつくっていくことで、子どもの最善の利益につなげていきたいと考えています。

どのような問題であっても、そこに至るまでには様々なストーリーが存在します。今後もSSWとして、子どもの背後に広がる景色を温かいまなざしで見つめながら、その思いに寄り添い続けていきたいと思えます。

管理班から

◇降雪期の交通事故防止について

令和2年度冬休み前までの秋田地区における交通加害事故件数は減少傾向でしたが、着雪が進み、交通事故件数が増加しています。冬期間の運転時の注意点として、①速度を控え車間距離を十分に確保する、②急ブレーキや急ハンドル、急発進を避ける、③時間にゆとりをもった運転をする、④早めのライト点灯を心掛け、交通事故防止に努めるようお願いいたします。

◇令和3年度講師（臨時）等の採用手続きについて

- ・現在学校に勤務している方については、中央教育事務所員が学校を訪問して校長先生に書類を渡し、校長先生から手交していただきます。
- ・その他の勤務経験者については、自宅に郵送します。
- ・新規・新卒者については、以下の日程で説明会を実施します。

<秋田地区> 令和3年3月25日（木） 秋田県庁第二庁舎8階大会議室

<由利地区> 令和3年3月25日（木） 由利地域振興局3階会議室

